

RQ-4グローバルホーク 横田に到着 *RQ-4 Global Hawk arrives at Yokota Air Base*

August 9, 2019

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

太平洋空軍は、8月5日、RQ-4グローバルホークスの分遣隊をグアムのアンダーセン空軍基地から横田基地へ展開した。

今回のグローバルホークの日本への暫定的な展開は、グアムでの(台風等の)悪天候が航空機の運用に影響を及ぼす可能性がある夏から秋にかけての数カ月間、プラットフォームを移し継続して運用を行うためである。

グローバルホークは、高高度で長時間滞空し、遠隔操縦方式の非武装機で、空中偵察システムとして運用されている。内蔵された数々のセンサーとカメラにより、広大な空域を昼夜を問わず高解像度で全天候に対応した画像を永続的に提供できるように設計されている。



「これらの米軍の部隊と資産は、地域の安定と安全に一層貢献する。RQ-4の能力を軍および民間の指導者等に提供できるよう、迎えてくれたホスト国と基地に感謝している」と第319航偵察航空団司令官キャメロン・プリングル大佐は述べた。

グローバルホークは、情報収集、監視、偵察(ISR)の任務に加え、人道支援や災害救援活動に使用される。これまで行った主な任務の一つに、2011年東日本大震災の「トモダチ作戦」での人道支援・災害救援活動がある。

グローバルホークは、長期・赤外線カメラを使用して21日間連続飛行し、救助を求める生存者の画像や津波被害で壊滅した地域に放射能が広がる懸念があった福島第一原子力発電所の状況を含む3,000以上の被災地帯の画像を撮り、作戦指揮官に提供した。

2011年以来、太平洋空軍はグローバルホークを2014、2015、2018年に三沢基地に展開し、2017年に横田基地に展開した。